

学事・援助金システム標準化対応支援業務委託事業者
プロポーザル第2回選定委員会 議事録

開催日時

令和5年6月16日(金)

午後1時20分から午後2時20分まで

吹田さんくす3番館教育委員室

出席委員

学校教育部次長(委員長)、学校教育部学務課長(副委員長) 行政経営部情報政策室参事、市民部市民課参事、福祉部高齢福祉室参事

議題

学事・援助金システム標準化対応支援業務委託事業者の選定について

【質疑応答】

(委員) 職員の負担軽減について、人材育成の点から仕様書等の作成をお願いすると職員が成長できない。メリットはあるがデメリットもあると思うがデメリットの軽減についてはどう考えているか。

(事業者) プロジェクトにどこまで関われるか。時間の使い方を計画的に行っていく必要がある。

(委員) 専従割合はどれぐらいか。

(事業者) プロジェクトマネージャーは30~40%、プロジェクトリーダーは40~50%を考えている。専従割合については吹田市全体のバランスを見て柔軟に対応していく。

(委員) 広島市での実績があるが、広島市はどれぐらい進んでいるのか。

(事業者) 仕様書作成まで進んでいる。Fit&Gapは終わっており、Gapの解消段階に入っている。標準化を教育委員会ではなく学校で行っているケースもあるし、その逆もあり得る。知見を吹田市に持つてくることで同等の進捗割合にできると考える。

(委員) 広島市は広島市独自のFit&Gapがあり、吹田市は吹田市独自のFit&Gapがあると思うが、同じような進捗にできるのか。

(事業者) まず吹田市のFit&Gapを行う。そうすると国の標準仕様と吹田市のGapが出てくる。他市と同じようなGapが出てくると考えられ、その知見を当てはめることで時間短縮ができる。吹田市独自部分についてはゼロベースで検討する。仮説ありきではなく仮説を当

てはめることで職員の負担軽減につながり、吹田市に最適な方法を提案していきたい。

(委員) 市独自制度があるが、他市の独自制度は生かせそうか。

(事業者) いろいろな独自制度が各自治体にある。制度自体は違ってても対応策は流用できるものがある。制度というよりは業務プロセスによるところが大きい。独自制度にも十分対応できると考えている。

(委員) 再委託について、他市で行っているのか。

(事業者) 間接業務のみ再委託している。

(委員) 人材育成について、実際の成功事例はあるか。

(事業者) 若手職員に対して DX だけでなく、市職員としてどうするかを何回か説明した。事務局会議で IT に関する知見の説明を欠かさずした。全体会として研修会を設けた。

以上